

農作物病害虫発生現況情報（5月） 水稻編

1 もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は45.5%（平年24.8%）で平年より高かったが、発生箱率は0.08%（平年0.17%）で平年よりやや低かった（表1）。
- (2) 腐敗症状苗25サンプルについて菌の分離を行った結果、もみ枯細菌病が15点、苗立枯細菌病が8点であった。なお、菌種の判別ができなかったものが2点あった。

2 苗立枯病

- (1) 巡回調査では、発生施設率は12.1%（平年30.0%）で平年より低く、発生箱率は0.12%（平年0.20%）で平年並だった（表1）。
- (2) 関与菌は、ピシウム属菌（ムレ苗含む）であった。

3 ばか苗病

- (1) 県内広く発生が確認されたが、発生箱率は0.12%（平年0.48%）で平年より低かった（表1）。

表1 育苗施設の病害発生状況（調査日：4月28日～5月10日） 単位：巡回調査施設数

調査地域	調査施設数	病害発生施設数			
		細菌病類	苗立枯病	ばか苗病	
県北部	3 (3)	1 (1)	0 (0)	3 (2)	
県中部	16 (16)	7 (7)	1 (3)	15 (15)	
県南部	11 (11)	6 (4)	2 (2)	11 (10)	
遠野・沿岸部	3 (3)	1 (1)	1 (0)	3 (3)	
合計	33 (33)	15 (13)	4 (5)	32 (30)	
発生施設率 (%)	R 5	—	45.5 (39.4)	12.1 (15.2)	97.0 (90.9)
	平年	—	24.8	30.0	90.7
発生箱率 (%)	R 5	—	0.08(0.17)	0.12(0.07)	0.12 (0.22)
	平年	—	0.17	0.20	0.48

※ () は令和4年の調査結果

※ 平年：H25～R4（10ヶ年）

4 イネミズゾウムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第4半旬に成虫の侵入が確認された（田植日：5月12日）。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、成虫の発生は確認されなかった（平年3.6%）（図1）。

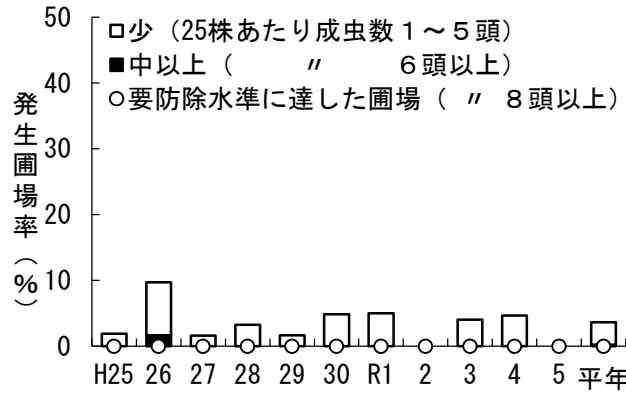


図1 イネミズゾウムシ成虫の発生圃場率の年次推移（5月下旬）

5 イネドロオイムシ

- (1) 基準圃場（北上市成田）では、5月第5半旬現在、成虫の侵入は確認されていない。
- (2) 5月下旬の巡回調査では、平年同様に成虫の侵入は認められず、産卵も認められなかった。

6 イネミギワバエ

- (1) 5月下旬の巡回調査では、産卵がみられた圃場率は36.5%（平年18.4%）であり、平年より高かったが、程度は低かった（図2）。

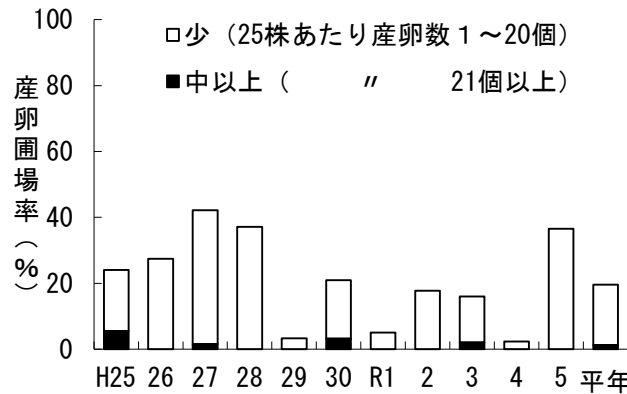


図2 イネミギワバエの産卵圃場率の年次推移（5月下旬）

7 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田、イタリアンライグラス）におけるすくい取り調査では、5月第2半旬に越冬世代幼虫、第4半旬にアカヒゲホソミドリカスミカメ成虫が確認された。アカスジカスミカメ成虫の発生は確認されていない（表2）。

表2 基準圃場における斑点米カメムシ類すくい取り調査結果（北上市成田、往復20回振）

調査日	成虫 (頭数)		幼虫 (頭数)
	アカスジカスミカメ	アカヒゲホソミドリカスミカメ	
5/2	0	0	0
5/9	0	0	10
5/12	0	0	6
5/17	0	4	3
5/22	0	4	7
5/26	0	33	17